

No 26
31 Jan. 2010

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成22年1月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

新年のご挨拶

協会メンバーのみなさま、
平成22年 新年明けましておめでとうございます。



会長 / 山下 勝男



最初から悲しいご報告ではありますが、昨年暮れも押し迫った12月23日、当協会顧問の菊本享様のご逝去されましたとの報に接しました。

私自身、去る9月16日のパプアニューギニア独立記念レセプション、また、11月17日のマウエ大使送別会の際に、お元気なお姿を拝見したばかりでしたので、突然の悲報にただただびっくりしている次第であります。

故人は、全国ソロモン会事務局長として長年にわたって、戦没者の遺骨収集、戦地の慰霊巡拝の事業を精魂傾けて実施してこられました。7年前、私がパプアニューギニアに駐在していた頃初めてお会いしましたが、使命感に燃えた、そのひたむきな姿に深く心打たれたことを覚えています。また、故人は遺骨収集、慰霊巡拝のみでなく、現地の人々との交流にも私欲を捨てて献身的に努められ、パプアニューギニアの人々の草の根レベルで幅広く尊敬を受けてこられた日本人の一人でもありました。

もうしばらく当協会の文化交流・友好促進事業についてもご助言をいただきたいと願っていた矢先でしたので、本当に残念でなりません。ここに協会を代表しまして、ご家族の皆様にも深く哀悼の意を申し上げますとともに、故人のご冥福をお祈り申し上げます。

日本・パプアニューギニア両国関係において、昨年は数多くの重要行事がありました。5月にはソマレ首相が10回目の訪日をされ、レセプションの場で協会のメンバーの方々と交流されたことは記憶に新しいところです。政府レベルでの経済協力では、ポートモレスビー下水道計画、ブーゲンビル島の橋梁建設計画への日本政府の支援につき合意が成立、民間レベルでは、LNG資源の開発につき日本企業とPNG政府との協議が着々と進展していることは喜ばしい限りです。また、マウエ大使の並々ならぬご努力により、パプアニューギニアの日本との外交活動の拠点となる新大使館ビルの建設が着工の運びになったことは重ねて嬉しいニュースでした。

本年においては、昨年両政府間の航空協議が合意に達したことによりニューギニア航空の週2便運航が実現すること、この増便の機会にソマレ首相の第11回目の訪日を実現すること、昨年末多くの日本人に惜しまれながら離任したマウエ大使の後任大使が一刻も早く着任されること、大使館事務所がスケジュール通りに完成すること等が期待されています。

これらのイベントを通じて、両国間の交流が一層促進され、国民レベルの相互理解、友好関係の深まりが一段と進展することを心より願いながら新年のご挨拶といたします。

マイケル・マウエ大使送別レセプションに参加して

「がんばって」「げんき」「だいじょうぶ」

川口 築

(当協会会員 日本旅行作家協会会員 旭化成建材海外事業室室長)

「がんばって」「げんき」「だいじょうぶ」

マイケル・マウエ大使ご夫妻が日本を離れられることになった。本国で外務政務次官の勤務を拝命されたということである。日本式に言うとかんがりの「ご栄転」である。これからは日本のみならず世界を相手に外務大臣をサポートされる立場だ。しかし7年10ヶ月の日本大使館勤務という長きにわたる在任期間を遂げられた大使そしてご夫人から出た言葉が、日本の友人から教えたれたという冒頭の言葉だ。

旧文部科学省等の跡地に再開発された高層ビル「コモンゲート」の最上階37階のレセプションルーム「霞山会館」、折からの悪天候で窓からの夜景も霞みがちである。ただ当送別会には冷たい雨にも関わらず150人もの関係者が列席された。送別の辞、送別の品贈呈と別れの宴がなごやかに続く。

しみじみとした語り口でご夫妻は語られる。日本に来てよかったと。勿論外交官であるから、同様の事はいつでも語られるのであろう。が、どうもそれ以上の親密感を持たせるお話であった。なぜだろうか？

それぞれの人達と肌身を通して触れ合われたことがやはり日本と親しくなっていかれた源になっているのだと思う。

マウエ大使は一見すると強面である。体格も良く威圧感がある。しかし一旦笑われると180度変わってニコヤカで親しみやすくなる。これはPNGの人たち(特に高地の人達)の典型である。まさしくこれも触れ合っ



山下会長とマウエ大使

「がんばって」「げんき」「だいじょうぶ」

今はどちらかと言えば冒頭の言葉の様に励まされたいという風潮の日本であるが、改めてPNGを鏡にして日本を気づかせてくれるようである。

私が初めてPNGを訪ねたのは22年前。限られた人たちしか関わっていなかった当時からすれば、5月のソマレ首相の来日歓迎レセプション、そしてこの150人を越す送別会は隔絶の思いがする。経済状況、社会状況の流れもあるが、こういう場を辛抱強くこしらえてくれた関係者には頭が下がる。そしてマウエ大使はその重要な架け橋の役割を果たされたと思う。大使の置き土産である3月31日からのニューギニア航空週二便の運航開始を我々関係者で是非盛り上げていきたいですね。

マウエ大使ご夫妻、本当にお疲れさまでした。



さようなら、お元気で・・・



マウエ大使と令夫人

「親しさはふれあいだ」

大使は在任中日本全国35都府県を訪問されたという。日本を知らねばという義務感がきっかけか、また大使の好奇心かは分からないが、結果として日本人でも中々訪ねられない土地土地に滞在された。そして



当協会より授与した感謝状

今年は何んな年?
副会長 鈴木 紀久代

まずは、新潟パプアニューギニア協会の2009年を振り返ってみたい。

新年度早々、5月に大使館の地鎮祭のために来日した舞踊団が来県し、見附市の小学校への学校訪問と長岡市内での一般向けのイベントを行った。長岡でのイベントでは、最後は客席の人々も一緒に踊りに加わり、楽しいひと時を過ごすことができた。



また、9月には、鶴ヶ島市のポリライブと共同でブイ・ジェネレーションを招聘し、最初の1週間を協会で、後の2週間をポリライブで受け持つ、学校訪問をはじめ様々なイベントを行った。新潟では、13日に今泉博物館(南魚沼市)にて、歌と踊りを披露し、クイズを交えてPNGの紹介をした。ここでは、老若男女予想以上に多数集まっていた、ビルム等の販売も順調だった。14日は長岡市内の小学校2校、15日は見附市内の小学校と幼稚園を回り、16日に南魚沼市内の学校を訪問した後、東京へ移動し、PNGの独立記念レセプションの会場で歌と踊りを披露できた。目を輝かせてPNGの歌と踊りを見つめる子供たちの表情が印象的だった。

ブイ・ジェネレーションのメンバーは、新潟パプアニューギニア協会の支援地区の出身者なので、最近の情報もいろいろ聞けたし、支援金を手渡すこともできた。なんでも、ワリアの村にもノキア(フィンランドの携帯電話会社)が来て、携帯電話を使うことができるようになったそうだ。電気もガスも水道もない地域ではあるが、近代化への波は押し寄せているようだ。

ポリライブも、高麗神社での奉納公演や、子供たちとのワークショップ、オールゲタシンシンと名打った公演や、学校訪問と盛りだくさんの2週間を過ごし、ブイ・ジェネレーションの招聘事業を無事終了した。

なお、この事業には、日本・パプアニューギニア協会から助成金をいただいた事をこの紙面を借りてお礼申し上げたい。



様々なイベントのあった2009年が終わり、2010年は、どんな年になるのだろうか。まずは、1月18日に12月に引き続き、ある小学校でのPNG啓蒙授業。3月には、PNGの書籍発売。末には、PNG舞踊団とのイベント。4月は、ぜひともPNGを訪問したいし、進行中とは言いながらも、なかなか進まない支援事業のいくつかになんとか目処をつけたい。大使館の完成や、週2便就航も伴い、日本にとってますますPNGが身近になる年となる事を祈念したい。

青年部の勉強会

角田 明日香(当協会会員 青年部)



出席者勢ぞろい

昨年の11月、青年部が月に一度行っている月例会で、協会の理事を務めていらっしゃるイレーネ賀集様に講演をしていただきました。

賀集様は、8年前に初めてパプアニューギニアを訪れて以来、毎年ハイランド地方を訪れてゴロカショーをご覧になっておられるとのことでした。

人々もショーも魅力的で気候的にも過ごしやすけれども、インフラ整備が万全ではないため、村から村への移動が大変だとおっしゃられていました。また、毎年訪れるので、PNGの様々な面が少しずつ変化してきていることに気がつくともおっしゃっていました。

お話を伺っていて気になったのは、ニューギニア島にしかない動物を



講演会のようす

狩る目的が、かつては自分達の食料を、あるいは踊りの際に使用する鳥羽を確保するためであったのが、今では観光客に売るためになってしまったということや、それまでのパプアニューギニアには習慣としてなかった酒やタバコなどの嗜好品が出回ることによって依存症になる人が増えているということ、そして、治安の悪化やスラム街が増加しているということ等です。

私は、これらの現象が、観光客の増加や異文化の流入等によって急激に変化する社会に、国(政府)や人々が順応しきれずに生じた歪みのように思いました。

以前、世界銀行東京事務所において、インターネット回線を通じて、パプアニューギニア大学の学生とテレビ会議をさせていただいた際、パプアニューギニアが抱えている様々な問題について伺ったことを思い出しました。

今回の賀集様の講演やパプアニューギニア大学の学生とのテレビ会議は、私達に出来ること、すべきことは何かということ改めて考えさせてくれました。しかしながら、具体的には何が出来るのか、今はまだ見えておりません。

ですが、青年部は、パプアニューギニアとの長期交流を目的に活動していきたいと考えており、その第一歩は、パプアニューギニアという国をもっとよく知ることだと思っています。パプアニューギニアが現在抱えている問題やそこに至るまでの経緯、さらには文化や歴史等を多角的な視点から捉えて学ぶことで、私達に出来ることが見えてくるのではないかと考えております。

しかしながら、青年部だけでは限界があるため、是非とも協会員の皆様のお力添えを頂戴したいと思います。様々な立場からパプアニューギニアに関わっていらっしゃる皆様のご経験を、青年部の月例会においてお話ししていただきたいと思っておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第19回

「みなさん、こんにちは。」

「阿含宗です」

〒605-0000 京都府京都市
東山区三条通り神宮道上ル

TEL075-761-1141

FAX075-761-5619

阿含宗は、仏教を信奉している宗教法人で、真正仏舎利尊(お釈迦さまのご聖骨)を本尊としております。当宗では、昨年、太平洋戦争において南太平洋で戦没された日本兵を、お釈迦さまの成仏法によってご供養し、そのお霊をお社(御英霊御霊依代)にお祀りして日本にお連れするために、桐山管長と333名の修行者が海を渡って法要を行ないました。

この護摩法要「ガダルカナル大柴燈護摩供」では、10月6日にソロモン諸島国ガダルカナル島で大柴燈護摩供、同じくパプアニューギニア独立国において二日後の8日に護摩法要をそれぞれ奉修いたしました。

ことにパプアニューギニア独立国における法要の実施にあたっては、当協会の島田事務局長様、前駐日特命全権大使マ



イケル・マウエ様のご尽力をいただきました。また、現地調査は協会員である栃木県護国神社、旅行はニューギニア航空、株式会社WBC、成田レーディングの皆様、物資輸送にあたっては、当協会法人会員である協和海運株式会社様のご協力をいただきました。

PNG東セピック州ウエワク市の平和記念公園において行なわれたこの法要においては、法要の意義にご賛同くださったPNG国軍の兵士12名が、この地において亡くなった日本兵たちに弔銃を捧げてくださいました。

また、会場でのインタビューに対して、ニューギニア国軍の太平洋諸島連隊・第二

大隊のドミニク・ブルンゴル中佐は、「第二次世界大戦で亡くなった兵士たちを供養するために、この地まで来て法要を行った日本の文化は素晴らしいと思います」と語られ、東セピック州ウエワク地方政府代表のトビィ・サメク氏は、「この場所とこの周辺の島々で多くの日本人が亡くなりました。みなさんはきっと戦争の痛みを感じていることでしょう。だからこそ今日の護摩法要は、世界平和のために歓迎すべきことだと思います」とご挨拶くださいました。

この法要の様子は、昨年12月27日のBS-TBSの特別番組として放映され、1月末から2月初めにかけて地上波各局で放映される予定です。



護摩木に願いを書く兵士



弔銃

事務局からのお知らせ

週2便になります!

3月31日より、ニューギニア航空、成田ーポートモレスビー直行便が、週2回、水曜日と土曜日に飛びます! 一週間お休みがとれない方でも、気軽にパプアニューギニアへ行けます! ぜひ、みなさん、ご利用ください。

PNG大使館が新しくなります!

3月31日(水)、新しいPNG大使館の落成

式が行われます。みなさまには、おつてご案内申し上げます。

キノポリカンガルー写真集

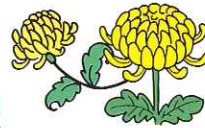
写真家、スギ☆カナ様が「Tree Kangaroo」写真集を発行されました。

詳細は以下まで。<http://sugi-kana.com/>

菊本 享様がお逝去されました

冒頭の山下会長の挨拶にもありましたように、昨年12月23日、当協会顧問菊本 享様が永眠されました。菊本様には多大なるご指導、ご鞭撻を賜っておりましたので、

残念でなりません。ここに深く哀悼の意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記

今年は、新しい大使館完成、ニューギニア航空週2便化、忙しい年になりそうです。いよいよパプアの時代到来か。ワクワクしますね。みんなで盛り上げてがんばっていきましょう。 佐藤直子

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1,000円

会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

*会員数 2009年12月末 法人会員/24 個人会員/119

口座 / 番号 00140-2-277582
問入 / 日本・パプアニューギニア協会
合 せ / 日本・パプアニューギニア協会 事務局
先 名 / 〒102-0074
先 先 / 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空 日本支社内)
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556
E-mail:info@air-niugini.co.jp